

科目名	宗教哲学特殊研究	担当者	イシハマ 石浜 ヒロミチ 弘道	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>従来、宗教は私たちの心の支えや平安のために不可欠なものであった。しかし今日、既成宗教が過激となることで狂信や迷信に陥り、あるいは為政者の支配の道具となり暴走し悲惨な事件を起こしている。そこで本科目では宗教思想の歴史を把握すること、そして宗教の本質的な在り方、そのあるべき姿とは何かを問うことを第一の目的とし、さらにその具体的な事例としてキリスト教『聖書』に見られるイエスの足跡を解説することで、彼が伝えたかった真の宗教の世界をその原点に立ち返って考えたい。さらにその視点をもとに、今日世界各地で起こっている宗教的な諸事件を自ら積極的に調べることで、今日の宗教的諸問題を客観的に判断し、そのあるべき姿を社会に発信できる能力を養う。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 学習者はキリスト教を主とした宗教思想の理解を通して、既存の宗教から不可欠に生じる諸問題を正確に把握し、あるべき宗教の姿と多様な宗教それぞれの固有の存在価値を論理的に理解する。 【行動目標 (SBOs)】 学習者が宗教のあるべき姿を理解することで既成の宗教を客観的に説明できるようにする(知識・解釈)。さらに宗教本質論と同時に宗教多元論の立場をも考察し、宗教の多様な価値をできる限りその内面からみつめることで現実の諸問題を指摘し、さらにその解決を列挙できるようにする(知識・問題解決)。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学習媒体等】 ・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・図書館等を利用し、参考文献等を分析・解説しレポートを作成する。 【学修方略 (LS) と学修時間】 ・学習者は宗教の本質への考察を踏まえて、宗教の具体的な例としてのキリスト教の学修を通して宗教のあるべき姿を学ぶ(自習)【15時間/レポート1本】。 ・さらにその本質の逸脱から生じる今日の諸事件(宗教過激派やカルト系宗教など)を分析することにも時間を割き、宗教の特性とその今日的意味を幅広く学ぶことに心がける(自主研究)【10時間/レポート1本】。 ・1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに5時間以上(レポート作成)【10時間/レポート1本】。 ・manaba folio への提出・再提出のやりとりその他に10時間以上が目安(ディベート)【10時間/レポート1本】。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)は7月末、課題(2)は8月末を目安に提出する。いずれの課題も学事暦で定められた日までに提出しなければならないが、初稿等はそれより早めに提出すること。 後期：教材2のレポート課題(1)は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目安に提出する。いずれの課題も学事暦で定められた日までに提出しなければならないが、初稿等はそれより早めに提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストを正しく理解し、課題ごおりのレポートとしての的確に書かれていること
	観察記録	20%	再提出レポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること
履修者への要望	<p>哲学や宗教の書物はその思想的な理解だけではなく実践的面においても、自らの思索を深め、広い視野や客観性を高めるうえでも有効なので、テキスト内容を一字一句、しっかりと吟味しながら読解し、実践することが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ジャン・グロンダン 教材名： 『宗教哲学』（白水社・文庫クセジュ、2015年）ISBN:10-4560509999 1296円
	本書は宗教の本質を伝統的な理性と信仰という側面から、かつ古代ギリシャから現代までの歴史的な考察により、キリスト教的背景を持ちながらも宗教にありがちか一面的な見方を脱却し、宗教の普遍性と多元論的な見方の可能性を内容とする。
参考図書	熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2冊、2006年）ISBN:4-00-431007-5 各860円＋税 ジョン・ヒック『神は多くの名前をもつ』（岩波書店、1986年）ISBN:4-00-000314-3 1900円＋税 波多野精一『宗教哲学序論・宗教哲学』（岩波文庫、2012年）ISBN:978-4-00-331453-1 1260円＋税
履修上のポイント	哲学や宗教の書物は用語の特殊性もありわかりにくいものも多いが、その都度こまめに思想系の辞書を引いて確認することが望ましい。またテキストについてもできれば哲学的な背景が必要であるので、上記のような哲学史の入門書で基礎知識を得ておくとう理解が容易となる。
レポート課題 1	テキスト第1章から第3章を読み、宗教の本質とは何かを述べなさい。 留意点： 上記の参考図書（ヒック、波多野）と比較することによって、テキストの立ち位置や内容がより明確となる。
レポート課題 2	①テキスト4,5章を要約し哲学と宗教の関わりを述べなさい。②またはテキスト6,7章を要約し、どのように宗教が哲学に移行していったかを述べなさい。（①②どちらか一方のみ選択） 留意点： 思想史的背景を考えつつまとめることで、哲学と宗教の関係・内容がより理解できる。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 『新約聖書・新共同訳 NI240』（日本聖書協会、2013年）ISBN:978-4-8202-3201-8 教材名： 500円＋税 その他の版、出版社でも可
	『聖書』はキリスト教を知る上での最良の書物であると同時に西洋思想に大きな影響を与えた基本的な文献である。そこには「福音書」という形でイエスつまりキリスト教の教祖の足跡が描かれ、彼の信仰の生き方を表す数々の言葉が述べられている。それに続く多くの書簡には使徒たちによってイエスのキリスト（救い主）としての信仰上の意味が語られている。
参考図書	波多野精一『原始キリスト教』（岩波全書、2005年）ISBN:9784000218672 2700円 石浜弘道『芸術と宗教』（北樹出版、2012年）ISBN:978-4-7793-0347-0 1600円＋税
履修上のポイント	『聖書』を学ぶことはキリスト教を知る上でもっとも大切なことであるが、その信仰的な内容の特殊性と普遍性を批判的に吟味することは他の諸宗教の意味を考える場合に参考となる。そのためには、宗教がしばしば陥る教条主義的な面を克服する多元論的な発想を踏まえ、かつ個々の宗教の普遍性の追求と批判的考察が必要であるという点を視野にいれ考えること。
レポート課題 1	『新約聖書』に含まれている四福音書から一つ選び、その中でイエスが語った神の愛・アガペー（裁きの義なる愛、弱者・罪人への愛、隣人愛、無制約的愛等）はどのようなものであるかを述べなさい。その際、聖書の引用には必ず章、節を明記すること。 留意点： イエスは神の愛のそれぞれを譬えを通して人々に語っている点に注意。
レポート課題 2	『新約聖書』に含まれているパウロの書簡「ローマの信徒への手紙」に述べられているキリスト教の主要なテーマである贖罪思想について、その内容を聖書の箇所を引用しながら説明しなさい。その際、聖書の引用には必ず章、節を明記すること。 留意点： 必要であればパウロの他の書簡等も参考にして述べると内容が深まる。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（宗教の本質とその普遍性）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；「宗教の本質についての概念的考察」
第 4 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（宗教の本質的についての歴史的考察）
第 5 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（宗教と哲学との関係の考察）
第 6 回	関連するガイドラインの検索とその内容の学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	宗教の歴史的推移とそのあるべき姿に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；『聖書』を通してのキリスト教に関する全般的考察
第 4 回	基本教材 2 の学修；「新約聖書・福音書」からイエスのアガペーとは何かを学修
第 5 回	基本教材 2 の学修；「新約聖書・パウロ書簡」からパウロの歴史的功績を理解
第 6 回	基本教材 2 の学修；パウロ神学を中心である贖罪思想を学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連するキリスト教の歴史的考察
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証